



地域連携の会 in岡山を開催しました!

2025年6月20日(金)

リーセントカルチャーホテルにて

第1部：もしバナカードゲーム



第2部：懇親会

この会は、患者さんの在宅医療を支えるために必要な「医療と介護の顔の見える関係づくり」を目的に開催しております。今年も多くの方にご参加いただき、大変盛況な会となりました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。



つばさクリニック

定期訪問 午前9時～午後5時 緊急往診 24時間対応

診療科目 訪問診療・内科
循環器科・呼吸器科・整形外科
〒710-0047
岡山県倉敷市大島534-1
TEL 086-424-0283
HP: www.tsubasa-clinic.net

つばさクリニック岡山

診療科目 訪問診療・内科・小児科
〒700-0026
岡山県岡山市北区幸還町1-7-7
TEL 086-254-0283
www.tsubasa-okayama.net

つばさ新聞

2025年7月発行
第55号

新人職員紹介

LINE

インスタ



医師

出身地 岡山市

山邊 陽子

趣味：登山。コロナ流行前は北アルプスの山によく登っていました。体力、脚力をつけてまた山登りをしたいと思っています。
一言：10年ぶりに生まれ故郷の岡山に戻ってきました。在宅医療に携わるようになって今年で10年目になります。地元岡山の皆様のお役にたてるよう、がんばってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

医師

出身地 岡山市

華房 宏

趣味：スノーボードです。日本海側に住んでいたことがあり、趣味程度で滑っています。
一言：在宅医療は初めてです。皆様が穏やかに過ごせるようにサポートをしていきます。よろしくお願いいたします。

看護師

出身地 倉敷市

豊田 桂子

好きなこと：子供のソフトボールの練習と応援、お店で食べた味の再現。
一言：病棟勤務、訪問看護を経て、この度つばさクリニックで働くこととなりました。私自身勉強しながら、患者さん、ご家族が安心して生活できるようお手伝いさせていただきます。宜しくお願いします。

看護師

出身地 愛媛県

普門 真季

趣味：息子の野球の応援、SnowMan
一言：訪問看護師として約10年程働き、在宅看護の楽しさを知ることができました。今度は訪問診療側からの在宅をみてみたいと思いつばさクリニックに転職しました。皆さんと楽しいお話ができればいいなと思っています。よろしくお願いいたします。

大雨に備える

避難の目安↓

患者さんと介護にあたる方は警戒レベル3で避難を開始してください。

レベル4や5が出るのを待たないようにしましょう。

避難は大変ですが、空振りになっても「安全なうちで良かった」「無事で良かった」と声をかけ合えたらと思います。

避難場所・経路↓

日頃から自宅の近くの避難場所と、そこまでの安全な避難経路を確認しておきましょう。

どうやって移動するのも相談しておきましょう。親戚・知人宅なども含めて避難先を想定しておきましょう。

垂直避難↓

夜間や冠水や地割れなど外に出るのがかえって危険な時は、安全確保を第一に考え、屋内の2階以上や山の斜面の反対側へ緊急的に一時避難することも検討してください。

住んでいる場所について知ろう↓

ハザードマップポータルサイトに住所を入力すると、その場所の災害リスクを知ることができます。「ハザードマップポータルサイト」で検索してみてください。【QRコードは、こちら】



警戒レベル↓

患者さんはレベル3で避難を開始してください

警戒レベル	新たな避難情報等
5	緊急安全確保
4	避難指示
3	高齢者等避難
2	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
1	早期注意情報(気象庁)

内閣府「新たな避難情報に関するポスター・チラシ」を一部改編

避難に備える

非常時持ち出し品を準備しよう

- いつも使うものをすぐに持ち出せるように、リュックなどにまとめて用意しておきましょう。
- 避難所へは自分達で必要な物を持ち込みましょう。
- 飲み込みが難しい方はご本人が食べやすい食品や、飲み込みやすい飲食物も必要です。
※持ち運びやすい物などご紹介しますのでスタッフへお伝えください。
- 薬はいつも一週間分あるように用意しましょう。

患者さん用 非常時持ち出し品リスト

- ☐ お薬手帳
- ☐ 健康保険証など
- ☐ 薬 1週間分
- ☐ 医療的ケア物品
※つばさクリニックでは毎月の支給分とは別に、毎年年末に災害用備蓄として余分にお渡ししています。
- ☐ 食品等(飲み込みの力に合わせたもの)
- ☐ 飲料水(必要な方はとろみ剤も)
- ☐ 衣服等
- ☐ おむつ
- ☐ マスク、アルコール消毒



理事長 中村 幸伸から皆様へ

台風や大雨の季節になりました。ぜひこのチラシ等を用いて、小さな事からでも備えをお願いします。もしもの時に患者さんとご家族で、二階に上がったり、外への避難ができるでしょうか。難しい方は、近所の方に日頃から協力をお願いしておく事をおすすめします。

中には、病気や障がいについて話づらい方もあるかもしれません。お気持ちはとてもよく分かります。それでも、命の分かれ目で力を借りられるのは、近くに人なのです。

※2011年東日本大震災、2018年西日本豪雨の際も、あやうい所で助かった方が多く、近所の方の手を借りていたことが分かっています。大切な一歩をどうか踏み出して頂ければと思います。

台風などによる停電に備える

暑さに備える↓

事前に保冷剤やペットボトル飲料を冷凍庫で凍らせて常備しておきましょう。首や脇に当てて暑さをしのいだり、飲料は溶けた後に飲むこともできます。うちわや電池式の小型扇風機も役に立ちます。(電池式の場合は電池も備蓄しましょう)

断水に備える(集合住宅では停電時水道が止まる場合があります)↓

飲料水を1人1日3リットルを目安に、3日以上を備蓄しましょう。
例) 3人家族なら3日間で27リットル以上が目安。栓を開けずに備蓄していれば、消費期限が過ぎても問題なく飲めます。

医療機器を使う方の備え↓

予備電源の確保を確認しましょう。これが難しい場合は電気を使わない方法を確認しましょう。(手動吸引、バギング等を定期的に確認しておきましょう。)また、電気を使わないケア方法ができる人員を増やしましょう。※発電機や蓄電池のご購入に際してご相談をご希望の方は、どうぞお気軽に当院スタッフまでお声がけください。